

ハマフエフキの中間育成

知名真智子 (旧姓金田)・渡辺利明・木村基文・鳩間用一・上田美加代
井上顕・杵山恵子・濱川薫・仲原英盛・村本世利朝

1. 目的

平成17年度は養殖用の大型種苗 (全長50mm) 8.7万尾を生産する。

2. 材料と方法

中間育成は、種苗生産回次 1 ~ 2 の種苗 23.3万尾 (以下、第1期) と生産回次 7 ~ 10 の 6.0万尾 (以下、第2期) を用いた。飼育には、屋内 50kL および 100kL の円形水槽と海面生け簀を使用した。

給餌は各水槽に自動給餌機設置し、配合飼料、中国産冷凍コペポーター、冷凍オキアミを給餌した。給餌量は稚魚の魚体重を適宜測定し、一日あたり魚体重の 3 ~ 15% 量を給餌した。

底掃除は毎日行い、回収した斃死魚の計数を行うことで、生残数の推定を行った。

出荷時には手作業により全長 50mm 以下の個体と骨

格異常魚の選別を行い、ベルトコンベアー式のフィッシュカウンターを用いて計数を行った。

3. 結果

平成17年度の中間育成結果を表1に示した。第1期で 7.1万尾、第2期で 5.7万尾、合計 12.8万尾の種苗を取り上げた。中間育成の生残率は、第1期で 30.5%、第2期で 95.7% であった。

第1期では、既存の設備で十分な加温ができず、飼育水温低下に伴う摂餌量低下、滑走細菌症の発生などによる斃死が長期間続き、その結果低い生残率となった。また、原因は明らかでないが、全長 60mm ぐらゐまで成長した種苗の中に、外見的な形態異常はないものの、垂直に遊泳する個体が目立った。

養殖用大型種苗の要望数は、最終的に 7.15万尾であり、すべてを満たすことができた。

表1:平成17年度ハマフエフキ中間育成結果

		第1期 (種苗生産1~2回次)	第2期 (種苗生産7~10回次)
収容年月日	(月日)	2006/1/11~12	2006/9/3~20
水槽規模(開始時)	(kL)	50kL × 4面	50kL × 3面, 100kL × 1面
稚魚の収容数	(尾)	233,033	59,898
開始密度	(尾/kL)	1,165	240
飼育開始平均全長	(mm)	29.3	29.0
飼育日数	(日)	74~194	47~73
取り上げ尾数	(尾)	71,041	57,311
生残率	(%)	30.5	95.7
取り上げ平均全長	(mm)	72.0	85.9
備考		加温	自然